
美少女でニートな沙耶香の日常

ヨネ@ハイテンション

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

美少女でニートな沙耶香の日常

【コード】

N0402E

【作者名】

ヨネ@ハイテンション

【あらすじ】

私の名前は沙耶香。自分で言うのもなんだけどってもかわい
い19歳。なのになんでなの！私は全然幸せなんかじゃない。なんで
私がニート生活しなきゃなのよ！こうなったら、沙耶香やってやる
んじゃないのよ！美少女ニート沙耶香19歳の非日常的な日常が始
まる。

「なんて言うのかしらね……。まいったわ、いくらかまいつてしまったわ」

いくら貯金通帳を眺めてみても、そこに記載されている数字は変わりはしてくれない。

なんて言えいいのかしらこの金額……。

キャッシュディスプレイではおろすことが出来ないこの金額。

そう、私の貯金の残高は千円を切っていた。

何故そんなにお金がないのかって？

「だって私ってば、ニートで美少女な19歳なんですものっ。てへっ」

PCのディスプレイの前で可愛く決める自分がわれながらキモイくて悲しさを誘った。

しょうがないじゃないのよ。

だって働きたくなんてないんですもの！

おかしいのよ、全てがおかしいのよ。

私の計算で行けば、この美貌の力でお金なんて気にしないでウハウハかつデヘデヘな甘い生活がおくれているはずなのに。

なのに、なのに、何なのこのていたらくは！

そう全てはあのイケメンかつ金持ちだった彼氏を、ついつい勢いで振ってしまったのが間違이었다のよ……。

「だって、あの時はすぐにそいつ以上のイケメンかつ金持ちを捕まえられると思ったんだもの。なのに、なのにいー！」

そうなのだ、一度目が肥えてしまうと、もう下の存在に目が行くわけなんてない。

前の彼氏よりも更に上を、もつと上を求めるようになってしまった。
なんて言うのかしら、ぜ、贅沢？

そんな感じで私は金ずる　もとい愛を失ってしまった。
気がつけば、元彼氏からもらったブランド品をヤフオクで売りさばく生活がスタートした。

それが悪かったのか・・・。。。。。

いつのまにやらPCにはまってしまい。

「うわっ、ネットサーフィンたのしい〜」

ネットで掲示板を巡ってるうちに日が暮れていたり。
「うわっ、このネットショップ凄いかわいい服売ってる〜。買わなきゃっ」

気がつくとポチッポチッとショッピングカートに品物を入れていたり。

そして誕生したのが、美少女二ート19歳『星野沙耶香』って訳。

「いけないわ！　こんな事じゃいけないわ！」

私はPCデスクの前から勢いよく立ち上がると、力強く握りこぶしを天高く掲げた。

「でも、でもっ。働くのだけはイヤ！　絶対にイヤッ！」

行き場を無くしこぶしはへにやへにやと地に落ちる。

どうするの、考えるのよ私。

私ならできるわ。だって私かわいいもの。

かわいいは正義なの、かわいいは素敵なの、かわいいは宇宙の法則なのよ！

「でも、男に媚びるのだけはイヤ！　絶対にイヤッ！」

そうなのよね、私は男にヘラヘラして甘えた声でおねだりとかするのが大嫌い。

なんなのあのプライドを売ってお金を得てますって態度。

私は私の思うがままに行動して、それでいてお金をもらいたいのよ！　愛されたいのよ！

そういうことが世間一般的に『ワガママ』と呼ばれているという事を知りはしなかった。

ええ、知ったとしても勿論しらんぷりよ！

「わたしそんなことわかんないもお〜ん」

ふふふ、それでOKなの。

なにその『いまのは媚びた台詞じゃないの？』みたいな顔は！

いいのよ、私がOKって言えば、なんでもOKなのよ。

今の総理大臣だって、私のOKがあつてこそ成り立ってるといってもおかしくないのよ！

ふう、そんな訳でもなくにもOKなの。

とにかく、PCの前で独り言を言ってもどうにもならないわ。むしろ、どうにも悪い方向に行く臭いがプンプンするわ。

私はその嫌な臭いを断ち切る事に決めたの。

そう、私頑張つてお外に行くわ！

沙耶香がんばるわ！

正義のため、もとい今日を生きるお金のために戦うわ！

さてと、お外に行くんだから、急にスイートな出会いがあつてもいいようにかわいい服をチョイスしないと、小物も、髪型も、お化粧品も、ふふふ、なんだか燃えて来たわ！

びっくりだわ。

なにがびっくりつて、朝10時お外に出かける予定だったのに、鏡の前で一人ファッションショーをしているうちにすでに13時をまわってしまったっていう事実がよ。

更に驚くべき事は、なんとかお化粧品も完成して、服も髪型もバッチリってなつたはずなのに、お金もないのに服に似合う指輪をオークションで競り落とそうとしてしまっていることよ………私ってば、なんて恐ろしい子なの。

ポチッと落札ボタンを押しそうになる手を泣く泣くマウスから離

すと、私は部屋を飛び出した。
きつとお外は甘い出会いに溢れているに決まっているわ。

だって私はこんなにかわいいんですものっ。
軽くターンなんか決めたりして私はさっそうと街へと飛び出した。

おかしい、確実におかしいわ。

街を歩いて約1時間が経つというのに、私にはなんらスイートな
出会いが訪れてないの。

ブサイクな男が数人ナンパしてきたりはしてきたけれど、私は相
手の顔を一瞥して一言言っ てあげたわ。

「あなた達はかわいそうな人なのよね。家に鏡って言うピカピカ光
る平べったいものがないんでしょ？ あ、反対に幸せなのかしら？
よかつたね、鏡がないお陰で、自分の醜さに気がつかなくてっ、
ふふふ」

ブサイクナンパ衆があっけにとられた様な顔をしている間に、私
はその場からテクテクと去っていったわ。

頑張ってお外に出れば、素敵なお会いがダンス単位で待っている
と思っていたのにとんだ計算違いだわ。

「はぁ………」

私はため息を一つついた。

ぐう

ため息に合わせるようにお腹がかわいく鳴いた。

お腹はすいたけれど、お金はない。

妥協してナンパされてご飯だけでもご馳走になっていればよかつ
たかな。

だめ、だめよ！

ダメダメのダメダメダメよ！

『妥協は禁物！』

でもそんな私の決意とはお構い無しに、私のお腹はかわいく鳴き続ける。

ぐうぐう　くうぐう　きゅー

もう、静かにしなさいよ！

泣きたいのは私のほうなんだからね！

気がつくとは私はふらふらと自動販売機のお釣りの取り出し口に指を突っ込んでいた。

な、何をしてるの私ったら！

そんなところに指を突っ込むなんてはしたない！

指を突っ込んでこねくり回すなんて！

コホン。

それはさておき、お釣りの忘れ物なんてありはしなかった。

「どこかにかわいい女の子は食べ放題で無料ってレストランないかしら………」

辺りを見回してみても、ごく当たり前のようにそんなお店は存在しなかった。

そんなとき、商店街の露店で売っているタコ焼きの匂いが……

「じゅるりっ。おいしそう。食べたい。とても食べたいわ。歯に青海苔がついてしまおうとお構いなしに食べてしまいたいわ」

その露店の看板には10個入りタコ焼き300円の文字が燦々と輝いていた。

300円……。

私の財布の中にあるお金は350円。

帰りの電車賃が180円。

350　180＝170円。

足りない、絶望的なまでに足りない。

130円が足りないのよお。

私はタコ焼き屋の前でがっくりと膝を落とした。

膝を落とした時に、地面にお金落ちていないかのチェックをする事はおこたりはしなかった。

でも、落ちてなかった……。

『もつイヤっ、こんな世界滅んじゃえー』

その時だ。

私の願いが天に通じたのか、はたまた神様の気まぐれか？

お空からとんでもないものが降ってきた。

「うわああ」

「ばけものだあ」

「宇宙怪獣だあ！」

逃げ惑う人たち、泣き叫ぶ子供たち。

そう、いきなりお空から巨大な宇宙怪獣が降ってきたのよ。

そして唐突に街を破壊しだしたの。

まあそうよね、宇宙怪獣と来れば、どんな理由か知らないけれどビルとか街を壊すものと相場が決まっているもんね。

この宇宙怪獣もそのルールに従ってなんだかなんなんだかで街を壊してまわっている。

逃げ惑う人たちの波に取り残されるように、私は地べたに座ったままポカーンと口あけていたわ。

だってだって、お腹がすいて動けないんだものっ。

でも、私は見てしまったの、見てしまったのよ。

露店から逃げ出すタコ焼き屋のおじさんを！

そして無人となったタコ焼き屋を！

良い匂いがかもち出したまま放置されたタコ焼き達を！

「チャーンズ！」

私は走った、そういとしのタコ焼き様の下へ。

ああ、会いたかった、そしてお口の中に放り込みたかった。

私はアツアツのタコ焼きを口いっぱい頬張った。

これが幸せって言うんだと思う、きつとそうだ。

ドシーン ドシーン

地響きを揺らすような音が鳴り響いていたけれど、私の耳には入らない。

もうタコ焼き様以外のことなんて、私、私考えられないのっ！

これはもう恋よね、恋でいいわよね。

ひとつ、ふたつとたこ焼きを胃に流し込んでいく。

ああ、満たされるわぁ、生きてるって感じだわぁ。

ズシーン ズシーン

ビルの瓦礫やら砂埃を立て怪獣は通り過ぎる。

「ちよつと、私がタコ焼き食べてるんだから砂埃とか立てないでよね！」

ほんと宇宙怪獣って奴はマナーがなってないわよね。

でもまあ、こうしてタダでタコ焼きがお腹イッパイ食べられるの

も宇宙怪獣さまさまなわけだし、感謝しなきゃいけないのかしら。

「はっ！」

ここで私は凄い事を思い付いてしまっちゃったのよ。

これよ、このタコ焼き屋と同じ方法を使えば……………。

うふふふ、もうやるしかないわ。

沙耶香走るのよ、私の求める場所へと！

宇宙怪獣のおかげで街はゴーストタウンと化していた。

だから、だからなのよっ。

この超高級ブランド店も中に誰も居ないって訳なのよっ。

私は無人の店内を物色しては、気に入った服をドンドン手にとっていくた。

「これもいいわね、うん、これも素敵。これなん凄くかわいい！」

実際買ったたりしたら合計金額はウン百万円いくんじやないかってくらの服を手にとると、これまた買ったら数十万円はするんだろ。うってバッグに無理やり詰め込んだ。

そうだわ、このワンピースはこのまま着ていっちゃお。

一番気に入った春にピッタリの黄色のワンピースに試着室で着替えると、私は鏡の前で優雅にターン、そして決めポーズ。

「うん、私のかわいさアップ!」

でもでも、そこで気がついてしまったのよ。

恐ろしい事に気がついてしまったの。

こ、このお店………監視カメラで録画されてるじゃないのよー!

なんて事なの、これじゃ無人のお店で服をいただいたところで、後で監視カメラをチエックされて捕まっちゃうじゃない。

逮捕されて死刑じゃないのよ。

だめ、そんなのだめっ。

でも、せつかく手に入れた服を返すなんて事はもつとダメ!

一度手に入れたものは私のものなの、返すなんてありえないの。

もうそれが宇宙の真理なのよ!

失望にくれる私をよそに、そんな事お構い無しにズシンズシンと能天気な街を破壊しまくる宇宙怪獣。

「もうむかつくわね。あんたなんてノータリンな頭で街を壊すくらいしか能がないんでしょ!」

街を壊すだけ………。

はっ! そうだわ、これだわ。

これなら私は完全犯罪をやったのけられる!

そうよ、あの宇宙怪獣がこの店をぶっ壊してくれればいいのよ。

そうすれば監視カメラの記録なんて店ごと消えちゃうんだからっ。

そんな事を思っている間に、宇宙怪獣はこの店を素通りで進んでいってしまう。

私の完全犯罪計画はアツという間に水の泡に………。
ってそんな事にさせてたまるもんですかっ!

私は猛然と宇宙怪獣に向かって猛ダツシュ。

そして宇宙怪獣の前へと回り込んだ

「ちよつとあんた！ 待ちなさいよ！ どこに行く気なのよ！」

私の声が聞こえたのか、宇宙怪獣は足を止めた。

そして『えつ、あんたつて俺のこと？』みたいな感じで小首をか
しげた。

「そつよあんたよ！ このでつかい身体にちつちやい脳みその低脳
宇宙怪獣のあんたよ！ バカの宇宙ランキングナンバー1のあんた
よ！」

宇宙怪獣のこめかみがピクツと音を立てて震えた。

「あんたなによ！ 街を破壊することしか出来ないくせになんなの
よ！ いま目の前のブランド店を無視したでしょ！ ありえない！
まじありえない！ 何で壊さないの！ 壊して何ぼなんでしょあ
んた！ それしかとり得ないでしょ？ それなのになんなのよ、
馬鹿なの？ まぬけなの？ クルクルパーなの？」

宇宙怪獣は何かを言い返したそうだったけれど、そんなの言い返
す暇なんて与える訳ない。

「この短足でブサイクで腋臭のチンチクリン！ お前のかーちゃん
でーべそつ。お前の父ちゃん無職でDV！ きつと今まで女宇宙怪
獣にモテた事なんか無いでしょ。ふつ、もうかわいそつを通り越
して哀れよね。ププツ」

宇宙怪獣は大きく嘶いた。

そつよ、怒るのよ！

そして街を破壊してまわるのよ、特にさっきのブランド店を重点
的に！

これで私の完全犯罪は完成するの。

そつ確信した時だった。

「ボク、おうち帰る……」

宇宙怪獣はそつつぶやいた。

そして大粒の涙をポロポロとこぼしだしちゃったのよ。

「えっ、ちよつと……あなた、待ってよ」

「ボク、おうち帰るもん。うわあああああん」

「そんな、そんなのありなの？」

「あんた宇宙怪獣なんでしょ？ 強いんでしょ？」

「ねえ、ねえちよつと！」

私の思惑なんか知ったことなく、宇宙怪獣は空に向かって飛び立っていった。

ポツーンと取り残される私。

暫くするとどこからともなく逃げ出していた街の人が集まってくる。

そして私を指差して口々にこう言った。

「彼女がこの街を救ったんだ！」

「けなげにも宇宙怪獣に一人で立ち向かったんだ！」

「なんて素敵なの」

「しかもかわいい！」

「美少女戦士！」

以下略。

そんなこんなで私は英雄に祭り上げられちゃった。

これで、いいの？ かしら？

でも現実には甘くはなかった。

数日後、ブランド店からお店の人がやってきた。

「そりゃそうだ、あの騒ぎで私は有名人。」

その有名人が堂々と盗みをしている姿がビデオに映っていたのだから。

でも街を救ったってことで、服を返えせば警察沙汰にはならないですんだの。

あつ、一番お気に入りの黄色のワンピースだけはもらっちゃった。
あとはまあ取材やなんやで少しばかりのお金も手に入れることも
出来たし。

もう宇宙怪獣さまさまって感じ。

なのに、なのになんでなのよ！

またしても私の通帳の残高がとんでもなく切ない数字になってい
るのは！

そりゃ確かにお金が入ったからってオークションで服を落札しま
くったりしましたよ。

んで、気がついたらこのありさまなのよ！

「ああ、また宇宙怪獣でも降ってこないかしら」

19歳 美少女ニート沙耶香の苦悩の日々は続くのだ！

おしまい

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0402e/>

美少女でニートな沙耶香の日常

2009年3月24日08時53分発行